

実践9 「雨の水って飲めるのかな？」

概要 「雨の水って飲めるのかな？」という子どもたちからの問いが、友達や保育者、保護者も関わっていく中で、様々な試行錯誤を重ねる活動に展開し、探究が深まっていく実践です。

ポイント 子どもたちが、問いをもち、探究していく過程での子どもの思いに添った保育者の関わりや友達同士の共有の場が、一人一人の自信や意欲につながっています。また、その姿を、ドキュメンテーションによって発信することで家庭をも巻き込み、子どもたちには、新たな問いや試しが生まれています。サークルタイムや保育の発信と共有による保護者を巻き込む保育の工夫は、子どもの体験の広がりや深まりをもたらしています。

(福)檸檬会 レイモンド新三郷保育園

5歳児

＜活動のきっかけ＊梅雨を迎えて＞朝のニュースで梅雨に入ったことを知った子どもが、みんなに報告をし、対話が生まれた。子どもたちとの対話では、「梅雨」「雨」の中にも“ドキドキやワクワク”という思いをもつ子どもが多くいることが分かった。雨だから外で遊べないのではなく、雨だからこそ普段とはまた違った世界が発見できる！という考えに保育者自身変わっていった。待っていた雨が降り、雨でしか体験できないことがたくさんあり、活動後の振り返りの時間では様々な発見の共有があった。カエルやバッタとの出会い、傘に水が当たる音、葉っぱについた水の綺麗さなどへの気づきもあった。そして、Bさんの「雨の水って飲めるのかな？」の疑問に、子どもたちから、「飲めるか」それとも「飲めないか」の意見が様々出てきた。

場面1：雨の水をどうやって集めるの？

・バケツを置いて雨水集めをするがバケツがすぐに倒れてしまい失敗。その後も風が吹いていないタイミングで採取するがうまくいかない。また、いないと思っていた虫もいる事が分かり違うやり方を考える。

Aさん：「やっぱり虫がいたから、バケツだと虫が入っちゃうね」

Bさんの提案で、ペットボトルを使うことになる。「ペットボトルにしたらここ(飲み口)が小さいから虫も入らないかも」

～何かを作り始める～

Bさん：「周りに石を置けば倒れないかも」 Cさん：「石あるよ！持ってくる」

Aさん：「これを下に置いたら虫も登れないんじゃない？」

Cさん：「いいね！」 Bさん：「外にキンギョの砂利あったからそれも使おうよ」

Cさん：「先生、スライム作る時に使ったやつも貸して」

保育者：「どうぞ！ある物何でも使っていいから頑張ってください」

・失敗を繰り返しても、その後も話し合い意見を出し合いながら水集めの道具を作り続ける。



場面2：汚れた水を調べてみよう、きれいにしよう

・雨の水を一定量集めることができた。見た目も匂いも普通の水と変わらない。中にゴミも発見し、子どもたちが、見てははっきりとした違いが分かるものがないかと、水質測定キットを使って調べたところ、「汚い水」で飲めないものだった。
・子どもたちは、ヤゴの水・カエルの水など、様々な水に興味をもち検査をした。それらをドキュメンテーションとして、活動報告をした。

～僕、調べてきたよ！～

・Dさんが、「先生見て！」とお兄ちゃんと調べてきたんだよ！このやり方もやってみよ」と自信満々な顔で言う。ドキュメンテーションやウェブマップにより、子どもたちだけでなく保護者の方々も見てくださり、家庭でも話題になり家族で調べてくる姿が多くなった。保育者は、Dさんの考えを受け止め、サークルタイムでみんなに伝えることになった。

Dさん：「雨の水をタオルの上に流してゴミを取って、それをお湯にしたら綺麗な水になるんだよ」 Eさん：「ゴミを取るのはいれ(ろ過装置)と同じだね」

Fさん：「じゃああれ(ろ過装置)から出てきた水をお湯にしたらいいってことだ！」

保育者：「そうだね。やってみようか！」 Eさん：「じゃあ入れるね」

Jさん：「ゆっくりね」 Eさん：「全部入れたよ！」

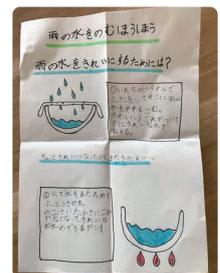
Hさん：「あれ？水が出てこないね…」

・どうやら入れた雨の水が少なくて水が出て来ない様子…

保育者：「雨の水が少なかったかな？」 Jさん：「でも、もう雨の水がないよね…」

Iさん：「ええ？あるよ、飾ってあるじゃん」 Fさん：「あれは、腐っているから汚いよ」

・相談の結果、以前集めた雨を足すことになった。



～以前取った雨の水も入れてみる～

Eさん：「出てきた！ えっ？ 綺麗」 子ども：「見せて見せて」
Eさん：「待って、今から持っていくね！」 Fさん：「本当にきれい！ 飲めるかも？」
・ 検査キットを使って検査をすることになる。Jさん：「絶対ピンク(飲める水)だよ」
子ども：「ええ？」 Kさん：「なんでオレンジなの？」
Eさん：「この前より汚くなってるじゃん！」 子ども：「なんで？」
◎ 以前、雨の水を検査した時よりも汚くなっていることに驚く子どもたち。
「なんでだろう？」という問いが生まれ自分たちの考えを伝え合い、答えを見つける。

～なんでこの雨の水は汚いの？～

Fさん：「この前よりも汚くなったの？ なんで？」 Iさん：「これ(ろ過装置)がダメなんじゃない？」 Cさん：「でも水は綺麗になってたよ！」 子ども：「…」
Eさん：「もしかしたら腐っている雨の水を入れたからじゃないの？」
保育者：「あーなるほど。確かにあの水は前に取った雨の水だし、すごく汚れていたからね」
◎ 「あの水入れなければ良かったね」「足りなかったからしょうがないよ」などの考えが出て、子どもたちの答えは以前の雨の水を使ったことが原因という意見でまとまった。また次回に向けて、採取した雨の水よりも多く水を取らないといけないうい事も学んだ。

～お湯にしたら綺麗になる！～

・ ろ過装置にかけても綺麗にならない雨の水、しかしお兄ちゃんと調べてきたDさんの持っている紙には続きも書いてあり、Dさんが発言する。
Dさん：「でも、お湯にしたらもっと綺麗になるんだよ、お湯は熱いからばい菌が死んじゃうんだってさ」
Kさん：「じゃあ、これも綺麗になるの？」 Jさん：「やってみたい！」

～調理室にお願いしIHヒーターとお鍋を借りて試してみる！～

Eさん：「ブクブクしてきた！」 Fさん：「これでばい菌が死んじゃうんだね」

～火を止め冷ましてから検査してみる～

Eさん：「ピンク(きれいな水)かな？ ドキドキする！」
子ども：「ええ、なんで？ 一緒だよ？」 Fさん：「オレンジじゃん」

～結果はお湯にする前と変わらないオレンジ色だった～

Jさん：「なんでお湯にしたのに綺麗にならないの？」
Kさん：「お湯にしたら綺麗になるって言ってたんだよ」
Iさん：「じゃあなんで綺麗にならないんだろう？」
Eさん：「腐りすぎてばい菌が強いんじゃないの？」 子ども：「そうだよきっと」
保育者：「じゃあどうする？」
Kさん：「やっぱり、腐っていない雨の水を取ってまた実験してみたい」
Fさん：「腐ってない雨の水ならお湯にしたら絶対に飲める！」
Kさん：「このやり方(自分が調べた通りの)でやってみよ！」
Jさん：「いいね！ じゃあ雨の水をまた集めよう」
・ その後、雨水を貯めているという家庭も増え、活動が広がっている。



[考察] ・ 子どもたちが主体となり対話を重ねていく時間の中で、問題を解決していくために新しい問いが生まれ、その度に試行錯誤を繰り返し自分たちなりの答えを見つけていく姿に創造性が育まれていた。
・ 自分たちで興味を広げ、考え試し見つけた答えだからこそ、自信をもち、実際に「誰かに伝えたい」という気持ちが生まれた。保護者も巻き込み、様々な人に認められ肯定感を育むことができた。またその経験が蓄積されることで新たな問いにも、自分たちの経験や考えを出し合い答えを見つけていく成長もあった。
・ それぞれの場面で多くの失敗もあったが、その「失敗」というところにも注目して、子どもたちが失敗を決してマイナスに捉えることのないように活動を支えた。すると、失敗を喜ぶ表情を見せる子どもが多くなっていった。その後に出る言葉は、「〇〇してみようよ！」「こうしたらいいんじゃない？」などの前を向いたポジティブな言葉だった。子どもたちは失敗しても環境次第では、自分たちで解決方法を考え、前向きに取り組めるのだと再確認する事ができた。失敗→考える→試す→できた！の循環の経験をすることで子どもたちのさらなる成長につながると今回の事例を考察する中で感じ、考えることができた。